

「大調査！プラスチック探検隊！！！」

単元目標

世の中のプラスチックに関わる問題やニュースに着目して、日常生活を支える利便性から地球規模の海洋プラスチック汚染に至るまでのプラスチック使用のメリットやデメリットなどを多面的に考えながら、プラスチックに関わる問題について調べることや実地調査を通して、自分たちを取り巻く現状についての理解を図り、自分たちの思いや願いの達成に向けて、事実を基に他者とコミュニケーションを図りながら、より妥当な考えをつくり出す力や主体的に問題を解決しようとする態度を養うことができるようにする。

本単元で働かせる科学的な見方

- ① 実証性: 実際に水を飲みながら、プラスチック製と紙製のストローの差異点や共通点を比べる。
- ② 再現性: 海岸の砂にマイクロプラスチックが含まれているか、同条件で複数回調べ、データを取る。
- ③ 客観性: 東京都の海岸だけでなく、日本各地の海岸のマイクロプラスチック片について調査し、より妥当な結果を出す。

プラスチック製と紙製のストローを比較しながら、体験や実生活での経験を基にプラスチックにかかわる問題について関心を持ち、疑問をもつことができる。 1/13 時間



実際に水を飲んで比べてみよう！



自然事象との対話



紙製はすぐにふにやふにやになったな。



「環境にやさしい」と書いてあるよ！

友達との対話

プラスチック製は水をはじくからやぶれにくい！



コストが安いから紙製のストローにしたのかな。

プラスチックの環境への問題を心配して、ストローを紙製に変えたことが分かった！

専門家や地域の人の対話

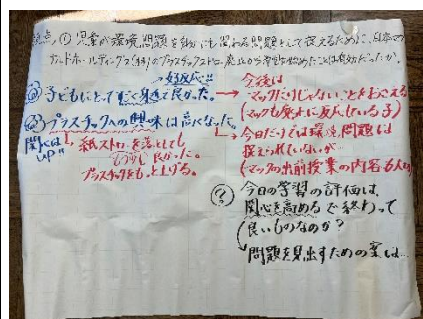
本当に分解されないまま残ったマイクロプラスチックが海岸にあるのか調べてみたい！



他教科との関連

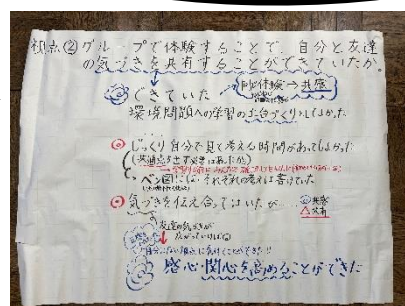
第4学年社会科「住みよいくらしをつくる」では、ごみの処理について理解を深めた。廃棄物を処理する事業は、様々な機関が協力しながら衛生的な処理や資源の有効活用ができるよう進められていることや、生命環境の維持と向上に役立っていることを学習した。その際、ごみを減らしたり水を汚したりしないようにするために自分ができることを考え、表現した。さらに、第5学年社会科「わたしたちの生活と環境」での学習とも関連させ、国民の一人として、国土の自然環境や生活環境の維持するために、国民一人一人が協力する必要があることに気付かせた。日本や世界ではどのような環境問題が起きており、それを解決するためにどのようなことに取り組んでいく必要があるのかを社会科との学習も関連させながら考えられるようにした。

子どもにとって身近な教材でよかった。



対話を通して友達の気づきに共感していた。

共通点ではなく、差異点を主に見つけた方がよいのでは。



評価は、関心を高めるまででよかったのでは。

